



図書職員部会 ニュース

館長選挙の意向投票権を求めて要望書を提出しませんか？

全学の図書系職場で働くみなさん！

本年 4 月の図書館長の任期満了に伴い、昨年度、図書館長選考が行われ、伊藤館長が再選されました。3 選は、25 年前の横越館長以来のことです。3 選に関しても、強力なリーダーシップの伊藤館長に関しても、全学の図書館職員のみなさんは、賛否様々な意見があることと思います。それについて意見を云う機会がないことをもどかしく思っていないですか？

館長選考手続きは商議員会を中心に行われますが、職員の意思表示としての意向投票権が認められています。ただし、現在意向投票権が認められているのは、中央図書館所属の職員だけで、部局図書室で働く職員は認められていません。

現在の組織機構上、部局図書室の職員は、部局の事務部に所属しており、職務上の上司は、部局の事務部の長であり、部局長です。ですから、部局図書室の職員には、直接的に図書館長から業務命令がなされることはありません。

しかし、全学の庶務、会計、教務などの業務の中心が事務局であるのに対して、全学の図書業務の中心は中央図書館です。図書館長の仕切っている商議員会が全学の図書業務のあり方を決定します。直接の命令権下にはないとはいえ、間接的には、部局図書の業務も中央図書館の方針の影響を受けます。昨年度、話題になった業務では、科研、外部資金などで購入した図書資料の登録の問題がありました。今年度は、外国雑誌主要 4 社の EJ オンリー化の検討の問題がありました。

ですから、どういう図書館長が選考されるかが、部局図書にも大きな影響を及ぼすといえます。

その意味でも、部局図書室職員も、図書館長選挙への意向投票権を要求するべきだと思いませんか？

これまでも、附属図書館長選考基準が見直されるたびに、部局図書室の職員に意向投票権を認める考え方もありうることが話題になりましたが、我々から特に要求はしませんでした。当局が投票権を与えてくれるのを待っているだけでよいのでしょうか？ 我々の側からも、要求してゆくべきではないのでしょうか？

この件に関して、3 つの立場が考えられると思います。

1. 部局の職員は、部局長選挙への参加こそ必要であり、図書館長選挙への参加は必要ない、館長選挙は中央館の問題であるという立場
2. 部局図書職員も館長選挙への参加は必要だが、今は黙って当局の判断を待とうという立場
3. 部局図書職員も館長選挙への参加は必要であり、我々の意思をはっきり当局に伝えようという立場

我々は、第 3 の立場をとるべきだと思います。当局の検討いかににかかわらず、我々の要求をはっきり伝えることが重要だと考えますが、いかがでしょうか？

要望書を提出すべく案を考えてみました。

賛成の方も、反対の方も、ご意見いただければと思います。

皆さんの意見をきいて、今後どうするかを決めたいと思います。

ご意見は：メールで、澤田(sawada nul.nagoya-u.ac.jp)、または、石田(iscida nul.nagoya-u.ac.jp)まで、あるいは、文書で、最寄り

の図書職員部会役員までお願いします

2006 年 月 日

附属図書館長 伊藤義人殿

名古屋大学職員組合図書職員部会

要 望 書 (案)

名大図書館では、附属図書館長の選考に際しては、職員の意思表示としての意向投票権が認められています。これは、図書館で働く職員の意見を反映する制度として全国的にも先進的な制度であり、それを法人化後も維持されていることは、民主的な図書館運営への図書館当局の理解の表れだと認識しております。

現在、意向投票権が認められているのは、中央図書館所属の職員に限られ、部局図書室で働く職員は認められていません。

現在の組織機構上では、部局図書室の職員は、部局の事務部に所属しており、職務上の上司は、部局長、部局の事務部の長です。ですから、部局図書室の職員には、直接的には、図書館長から業務命令がなされることはありません。

しかし、全学の庶務、会計、教務などの業務の中心が事務局であるのに対して、全学の図書業務の中心は中央図書館です。商議員会が図書業務のあり方を決定します。直接の命令権下にはありませんが、間接的には、部局図書の業務も中央図書館の方針に従っている側面があります。最近の大きな動きとしては、昨年度は、科研、外部資金などで購入した図書資料の登録の問題、今年度は、外国雑誌主要 4 社の EJ オンリー化の問題がありました。その意味で、附属図書館長の選考は、部局図書にも大きな影響を及ぼすといえます。

以上のような次第により、附属図書館長の選考に係る意向投票について、部局図書室の職員にも意向投票権を付与する方向で検討していただくよう要望いたします。

<以上>

遅くなりましたが、以下は、今期、図書職員部会役員のごあいさつです。

石田康博(部会担当中央執行委員)： 今期も部会担当中執と全大教図書館職員部の委員をすることになりました。今期は図書館職員の問題を取り上げられる活動にもってゆきたいと思っています。

澤田さとみ(部会長)： いろいろ考えて企画を立てていきますので、皆さま、ぜひともご参加下さい。お尻があげにくいな、という方は、声だけでもあげただけると嬉しいです。

次良丸章(図書館支部委員長)： 図支部と部会とで連携できればできるだけ、互いの活動がやりやすいのかなと思います。

棚橋是之： 2年間の出向を終えて帰ってきたとたんに部会の主要メンバーになってしまいました。2年間の変化にはまだついていけない部分が多々あり、まずは変化についていけるよう微力ではありますが、がんばりたいと思います。

浜島泰子： 役立たずの私ではありますが、種々の課題に取り組む努力はしたいと思います。(心がけだけ立派だ。) みんなに会って元気が出る部会にしたいものです。今期もよろしくお願いします。